

チャリンコを寄付するために

チャリンコで チャリティーする…

チャリ・チャリ・チャリティー



1. 概要

観光に必要なレンタルサイクルをボランティアで届けよう!

私たち名城大学チャリ・チャリ・チャリティープロジェクト実行メンバーは、愛知県名古屋市から宮城県気仙沼市まで自転車で行き、道中の宿泊施設や飲食店などで募金活動を行い、集まった募金で自転車や自転車用品を購入し大島観光協会へ寄付します。道中での募金活動だけでなく、出発前の準備期間にも大学内、学外で募金活動を行います。

2. なぜ 自転車なのか?

気仙沼市大島地区 観光業に復活を託す人々に自転車を

宮城県気仙沼市大島とは人口 3029 人、約 1092 戸の東北地方最大の離島です。震災前は東北のハワイ、緑の真珠と言われ多くの観光客でにぎわっていましたが、しかし今回の東日本大震災で甚大な被害のあった陸前高田市・南三陸町の間位置する気仙沼市も例外ではなく大島も大きな被害を受けました。津波によって漁船用の重油タンクが流され湾の中に重油が流れ出て、その重油に火が点き燃え広がり気仙沼湾周辺は数日間燃え続けました。また、津波の引き波によって本土の気仙沼市街から流れ着いた震災瓦礫によって島はめちゃくちゃになりました。主要産業である観光産業と漁業も観光資源の打撃と漁船の紛失や養殖いかだの破損により大きな被害を受けました。

美しい島の観光業復活に目を向けた時、我々は自転車に注目しました。周囲 23 km・面積 9.5 km²の大島は歩いて回るのこそ 1 泊 2 日では難しいですが自転車なら丁度いい広さです。観光協会が現在貸し出しているレンタルサイクルは 15 台ですが繁忙期は足らなくなることもあります。もっと多くの人にもっと気軽に大島の魅力を知ってもらいたい。私たちは何度も足を運び現地に寄り添ってきました。だからこそ、宮城県気仙沼市大島にレンタルサイクル用自転車の需要があると気づき、このプロジェクトに意義があるとも思っています。

3. 募金活動期間

2014 年 4 月 1 日～9 月 20 日 (予定)

4. 目標

20 台 (30 万円)

5. 日程

2014 年 9 月 1 日愛知県名古屋市出発・9 月 10 日宮城県気仙沼市大島到着 (予定)

6. 活動人数

3 人 (予定)

7. 活動報告活動報告は SNS を通じて行う。協力いただいた方からは任意で署名をいただき最終的な活動報告も行う。



今までの活動

H24.8.15



H25.12.8



H25.6.29



H24.12.1



H25.6.29



H25.6.30



大島観光協会



H26.3.16



H26.3.16



名城大学



H25.8.12



H25.3.16

H25.8.13



H25.3.17



H26.3.14



H24.7.1



H25.8.12



H25.6.29



H24.7.1



H26.3.15



H24.12.1



H23.12.4



● 宮城県気仙沼市大島と東日本大震災

宮城県気仙沼市大島とは人口 3029 人、約 1092 戸の東北地方最大の離島です。震災前は東北のハワイ、緑の真珠と言われ多くの観光客でにぎわい、外洋に面する小田ノ浜海水浴場は 2006 年に環境省「海水浴場百選・特選」に認定されました。

しかし今回の東日本大震災で甚大な被害のあった陸前高田市・南三陸町の間位置する気仙沼市も例外ではなく大島も大きな被害を受けました。中でも全国的に大きく取り上げられていたニュースが気仙沼の燃える港です。津波によって漁船用の重油タンクが流され湾の中に重油が流れ出て、その重油に火が点き燃え広がり気仙沼湾周辺は数日間燃え続けました。大島は気仙沼港から出るフェリーのみが本土との交通手段の為、震災が起きてから気仙沼湾が鎮火するまでの間、大島にはボランティアも救助も情報も入らず、震災発生時に本土に居た島民や島にいた本土の人にも不安になりながらただただ鎮火を待つのみでした。

大島での被害は死者行方不明者 31 人と他の地域から見たら比較的少ない方でした。しかし津波の引き波によって本土の気仙沼市街から流れ着いた震災瓦礫によって島はめちゃくちゃになりました。主要産業である観光産業と漁業も観光資源の打撃と漁船の紛失や養殖いかだの破損により大きな被害を受けました。

● なぜ気仙沼市大島でなぜ自転車なのか

ではなぜ我々が数ある被災地の中から宮城県気仙沼市大島の支援で、さらになぜ自転車なのかという疑問を持たれた方もいるかと思えます。

我々が宮城県気仙沼市大島という場所に初めて行ったのは 2011 年 11 月末でした。大学内のボランティアツアーに参加し復興の為に汗を流しました。それから 2012 年の 6 月・8 月・11 月、2013 年の 3 月・6 月・8 月 12 月、2014 年の 3 月と計 9 回大島に足を運び、ボランティアとしても観光客としても大島に関わってきました。同じ場所に継続的に行っていると現地の方との交流や滞在の過程で復興の現状や現地の状況が徐々にですがしっかり見えてきます。中でも印象的だったのが大島と本土を橋で繋ぐ大島架橋事業の話です。震災前から計画段階としてあったものが、震災の湾の火災によりフェリーが出なくなり本土と遮断されたことや島民の生活の利便性のために本格的に動き出しました。架橋事業の工事は着工しており平成 30 年（2018 年）には完成予定です。

しかし島民の生活の為とはいえ、観光産業中心の大島に橋が架かれれば自動車で来て観光名所を回り短い滞在時間で本土に戻り、便利な気仙沼市内で宿泊する観光客が増えるでしょう。大島架橋事業は大島に数多くある旅館や飲食店、観光客向け施設の悩みの種でもあるのです。東北地方最大の離島大島は実質的に離島でなくなる為、観光施設だけでなく架橋事業により現在島全体が揺れています。

そこで大島に長く滞在する意義を見つけてもらうために考えたのが自転車です。自動車で来てしまうと観光名所を自動車で回るので「点」でしか大島を知ることができませんが、徒歩や自転車なら「線」で大島を知ることができるのです。周囲 23 km・面積 9.5 ㎞²の大島は歩いて回るのこそ 1 泊 2 日では難しいですが自転車なら調度いい広さです。観光協会が現在貸し出しているレンタサイクルは 15 台ですが繁忙期は足らなくなることもあります。もっと多くの人にもっと気軽に大島の魅力を知ってもらいたい。何度も足を運び現地に寄り添ってきたからこそ、宮城県気仙沼市大島にレンタサイクル用自転車の需要があると気づき、このプロジェクトに意義があるとも思っています。